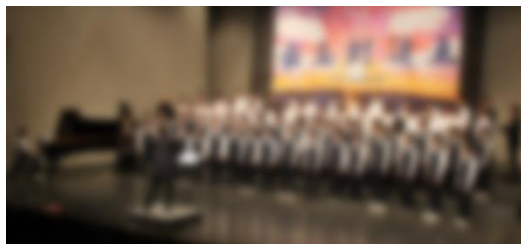




後期人権教育旬間 校長講話(11/18)より

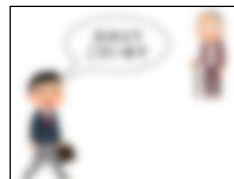
今年度の学校生活も8ヶ月が過ぎようとしています。先日の音楽会では、どの学級もどの学年も本当に素敵な合唱でした。本当に感動しました。北部中学校の生徒のよさ、素晴らしさを改めて感じることができました。ありがとうございました。



今日の校長講話では、6月に続いて「人権」について、皆さんと一緒に考えたいと思います。まず人権とは、「**すべての人々が生命と自由を確保し、それぞれの幸福を追求する権利で、生まれながらに持つ権利**」です。ところで、北中生のみなさんのあいさつは素晴らしいです。自分からあいさつをしてくれる人も多く、あいさつを返すときに立ち止まってあいさつをしてくれる人、目を見てあいさつしてくれる人もいて、嬉しくなります。先日の歯科検診に来た歯医者さんから「他の学校にも行っていますが、この学校の生徒は大きな声でしっかりとあいさつができて気持ち良いですね。」と褒めていただきました。

さて、そんなあいさつについて、次のような話があります。(北中のことではありません。)

ある日、ある通りを中学生が歩いていた。向こうから近所でよく見かけるおばあさんが歩いてきた。中学生はおばあさんに声をかける。「おはようございます。」しかし、おばあさんは無言のまま中学生の横を通り過ぎる。通り過ぎながら、おばあさんがつぶやく。「最近の中学生は口クにあいさつもできないんだねえ。」中学生は振り返っておばあさんに言った。「死ね！クソババア！」



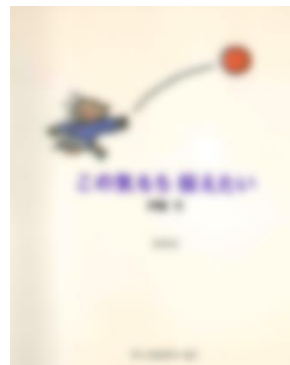
さて、皆さんはこの中学生をどう思いますか？なぜ、このようなことが起きてしまったのでしょうか。 ～隣、近所の人と話をする～

今日はまずコミュニケーションについて考えたいと思います。伊藤守さんの「この気持ち 伝えたい」(発行:ディスカバー21)という本の一部を紹介します。

～「この気持ち 伝えたい」(一部抜粋)の朗読～

さて、皆さんはどのような感想を持ちましたか。 ～北中 Meet～

どうでしょうか、**コミュニケーションは相手がいて成り立つものです。自分の思いを相手に伝え、相手が受け入れて初めて成立します。**さて、皆さんは相手が受け取りやすいボールを投げているでしょうか。相手はボールを受け取る準備はできているでしょうか。



先ほどの中学生とおばあさんの話に戻ります。中学生が「おはようございます。」と言った言葉は、おばあさんに届いていたのでしょうか。もしかしたら耳が遠くなって聞こえなかったのではないのでしょうか？考え事をしていたのかもしれませんが。おばあさんのつぶやきに対して、いきなり「死ね！」はどうだったでしょうか？おばあさんはどうしてこんなことを言ったのだろうと、**ちょっとおばあさんに寄り添って考えられていたら、こんな言い方にはならなかったかもしれません…。**人とのトラブルは、このようなコミュニケーションのズレから始まることが多いと思います。**自分はこういうつもりで言ったが、相手は違う受け取り方をした…。**そもそも受け取ってくれていなかった…。これはよくあることです。このズレが大きくなっていくと、お互いが傷ついてしまうようなトラブルになってしまうことがあります。

皆さんは普段、どんなキャッチボール・コミュニケーションをしていますか。自分の投げているボールはどんなボールでしょう。どんな言葉でしょう？考えてみてください。

もう一つ本を紹介します。菅原裕子さんが翻訳したインドの民話である「ひびわれ壺」(発行:二見書房)という絵本を読みます。

～「ひびわれ壺」の朗読～

さて、皆さんはどのような感想を持ちましたか。この物語の中で一番印象に残った部分はどこですか。 ～北中 Meet～

どうでしょうか？私は、このお話から2つのことが印象に残りました。

1つ目は「ひびわれ壺」の価値です。ひびがあるからダメなものではなく、ひびがあるからこそ、できることもあるということです。

2つ目は「水酌み人」の存在です。ひびがあっても使い続け、そして、ひびからもれる水を生かすため、花の種をまくことを思いついて実行した水酌み人の存在。この人のおかげで、一見すると欠点に見えるひび割れが、美しい花を育てるための役立つものになったと思います。

我々も同じように、誰もが他の人と違うところを持っています。それは短所や欠点ではなく、その人の価値や強みであると考えたいです。その上で、周りの人たちが、それぞれの人が持っている違いを理解し、その違いをその人の良さや強みであると考えられることが大切です。

しかし、自分では自分の価値に気づけないときもあります。そんなときは、周りの人たちが、その人の違いをどう生かせば強みになるかを一緒に考えられる存在になってほしいと思います。そうすることで、誰もが安心できる環境となり、北部中学校が目指している認め合い、支え合い、高め合う学校になっていくのではと思います。

生徒の皆さんの感想より(一部抜粋)

- 自分がもらったボールを粗末にしていけないか、よく聞いて話していきたい。他人と違うところを自分の良いところと捉えて、友達やクラスの人の良いところを見つけていけるようにしていきたい。
- その人にしかできないことを周りに知ってもらったり、自分で行動してみたりすることが大切なのかなと考えた。
- 水をくんでいた人のように他の人の“かくれた長所”を見つけ、サポートできるようになりたいと思いました。
- 私だったら、ひびがはいったら捨ててしまうので、欠点を欠点と考えるのではなく、どう活かせるのか考えるという考え方を身につけたいと思いました。…受け取らなかった相手が100%悪いのではなく、自分にもどこか悪いことがあったのではないかと振り返って次の会話に役立つようにしていきたいです。
- 人と違って、違った良いところがあるという考え方がとても良いなと思います。自分自身も自信を持ちたい。
- 一見何にも使えないようなものだけど、見方を変えてみればその物の良さが見つかってしっかり役立っていた。自分が第一印象で苦手だなと思った人もよく観察して、その人の良さを見つけたいと思った。
- 自分の欠点をうまく生かしてくれる人がいるって良いなと思いました。その欠点があるからこそ、できることもあるので、それも自分の個性であり、生かすべきことだと胸を張っていきたくと思いました。
- どんなボールが来ても受け入れられるくらいの気持ちでいたら、相手を尊重できて、一つ一つの言葉に悲しみすぎることも少なくなるのかなと思いました。…よさに気づかせてくれる人の存在がどれだけ生きていく上での心の支えになることがわかったので、身近な人たちを大切に、また、自分もそんな存在になりたいと思いました。
- 中学生もおばあちゃんも相手のことを何も考えずに一方的に言葉を投げつけてたから、お互いがお互いのことを考えて話せていたら、両方嫌な思いをしないですんだんじゃないかと思いました。
- 言葉を受け入れるために目を見たり、相づちを打ったり、体を向けたり、今までも意識していたけど、それ以上にもっと意識しようと思う。
- 柔らかく、平らな草原みたいな地面でやったら、どんな暴投でも滑り込んで取ってあげられる、そんな空間を作ることも大切だと思いました。
- これからは、相手の受け取りやすいボールでコミュニケーションを取ることと、それぞれの違いを認め合い、その違いが輝く北中にしたいと思った。

<北中生の活躍の紹介>

<中学生の税について作文>

全国納税貯蓄組合連合会優秀賞 諏訪税務署1日税務署長(12/4)

<新任職員の紹介>

(社会科・1学年副担任)

補充として11月29日(金)より勤務します。